〔蜘蛛の糸卷追加〕春駒の上るり

天明二年寅の霜月顔見世に、中村座にて、〇略中豐前大夫妙音にて、櫻田治助妙作にて、吉原の遊女名寄の春駒、兩人〇岩井半四郎、瀨川菊之丞、の所作、奇々妙々いふべからず、〇略中扨右遊女名寄の文句にのりたるは、若紫、玉屋千山、丁子屋雛鶴、同九重、同もろこし、同丁山、同なゝ里、扇屋若松、同連山、同濃紫、玉屋花紫、同誰が袖、大文字屋かほる、同花扇、二代目若菜、わかなや白露、越前屋くれなゐ、同すがたの、松葉屋都路、同あげ卷、同瀨川、同龜菊、同すが原、同江川、同ときは木、同かたらひ、同春日野、同以上廿七人、いづれも時の名妓、みせにつかず、仲の町をはりたる遊女どもなり、

〔後は昔物語〕よし原女藝者といふもの、扇やかせんに始まれり、

〔そゞろ物語〕歌舞妓をどりの事

見しは今、江戸にはやり物しなゝ有といへども、よし原町のかぶき女にしくはなし、〇略中慶長のころほひ、出雲の國に、小村三右衞門といふ人のむすめに、くにといひて、かたちゆう容に、心ざまやさしき遊女候ひしが、〇略中此遊女男舞かぶきと名付て、かみをみじかく切、折わけに結、さや卷を指、きたのつし北野對馬好まのかみと名付、今やうをうたひ、ふぢよのほまれ世にこえ、顔色無雙にして、袖をひるがへすよそほひを見る人、心をまどはせり、それを見しよりこのかた、諸國の遊女そのかたちをまなび、一座の役者をそろへ、舞臺を立をき、笛、たいこ、つゞみを打ならし、ねずみ鼠戸を立て、是を諸人に見せける、中にも名をえし遊女には、佐渡島正吉、村山左近、岡本織部、北野小大夫、出來島長門守、杉山主殿、幾島丹後守などゝ名付、是等は一座のかしらにて、かぶきの和尚といへるなり、

〔聲曲類纂一下〕都三中傳へし一中節の系圖あり、いぶかしき事もあれど、左に摸し出せり、常磐津系圖は、これによりて、作り添へしものなり、

藝名